



インターフェース[®] フロアブル

殺菌剤

芝用

進化したストレスガード製剤

StressGard[™]
FORMULATION TECHNOLOGY





インターフェース フロアブル

殺菌剤

芝 用

特 長

- QoI 剤とイプロジオン(ロブラール)の混合剤(非DMI(EBI) 混合剤)
- しつこいダラースポット病に卓越した効果
- ストレスガード製剤であり、既に販売されている「シグネチャーWDG」、「ミラージュフロアブル」と合わせて、プログラム散布をすることで、夏場のグリーンを強力に守る
- 芝に対する高い安全性
- 使用しやすいフロアブル製剤

ストレスガード製剤技術とは？

ストレスガード製剤技術は、UVB を効果的に遮断しつつ光障害を緩和する、バイエル独自の技術です。この製剤技術を用いた殺菌剤を使用することにより、病害の防除はもちろん、芝のストレス軽減や色合いの向上など、ターフクオリティを向上させることが可能となります。

グリーンの健康を維持するためには予防散布が重要

インターフェースフロアブルで
しつこいダラースポット病を抑制

病気の発病率を抑えて
夏を乗り切る体力を維持

予防効果の最適化へ



ダラースポット病

病害発生が起因する芝の生理障害にも注意。
グリーンの体力を奪う夏の日差しは脅威

ストレス

過剰な熱や
太陽光線

ダウン

植物の光合成を
阻害、体力低下

ダメージ

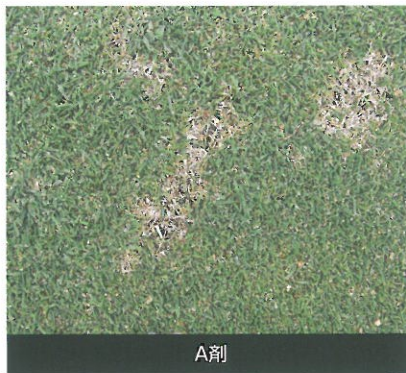
植物の細胞が
損傷

高い効果を引き出す
薬剤ローテーションが
重要ポイントです

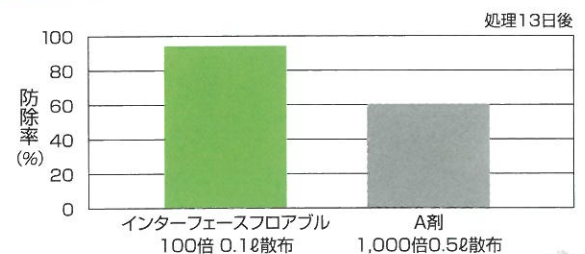
ダラースポット病に対する効果



インターフェースフロアブル



A剤



試験場所	関東地区Aゴルフ場
処理時期	ダラースポット病発病初期
処理年月日	2013年5月25日
調査年月日	2013年6月7日(13日後)
無処理発病率	10.0%

ベントグリーンに対する安全性

薬量	調査日		
	8月3日	8月20日	8月31日
①100倍 (1mℓ/m ²)	—	—	—
②250倍 (2mℓ/m ²)	—	—	—

評価方法：— (影響なし)

試験場所	関東地区Bゴルフ場
試験作物	ベントグリーン
処理年月日	2012年7月18日、8月3日
調査年月日	2012年8月3日、20日、31日
散布水量	①0.1ℓ/m ² ②0.5ℓ/m ²

ストレスガード製剤技術を採用。 ローテーション散布に最適。



バイエルだけの製剤技術

トリフロキシストロビン
 ●バリア効果
 ●QoI殺菌剤(デティケートの成分の一部)

ストレスガード製剤
 ●UVカット ●ストレス軽減
 ●緑色維持 ●ターフクオリティーの向上

イプロジオン
 ●非EBI剤
 ●ジカルボキシシミド剤(ロブラール)

→

**しつこい病害とサマーディック
ラインをシャットダウン!**

ストレスガード製剤を組み合わせた殺菌剤予防散布プログラム例

■ 一般的な病害発生傾向の場合 ● ストレスガード製剤

散布時期	5月			6月			7月			8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
発生対象病害	藻類 炭疽病			藻類 フェアリーリング病 ダラースポット病			ブラウンパッチ ビシウム病 ダラースポット病			炭疽病 赤焼病			炭疽病 藻類 ダラースポット		
薬 剤 名	プロテクメート WDG						ミラージュ フロアブル			インター フェース			シグネチャー WDG		
		プロテクメート WDG						インター フェース		シグネチャー WDG				プロテクメート WDG	
			シグネチャー WDG						シグネチャー WDG						デティケート フロアブル

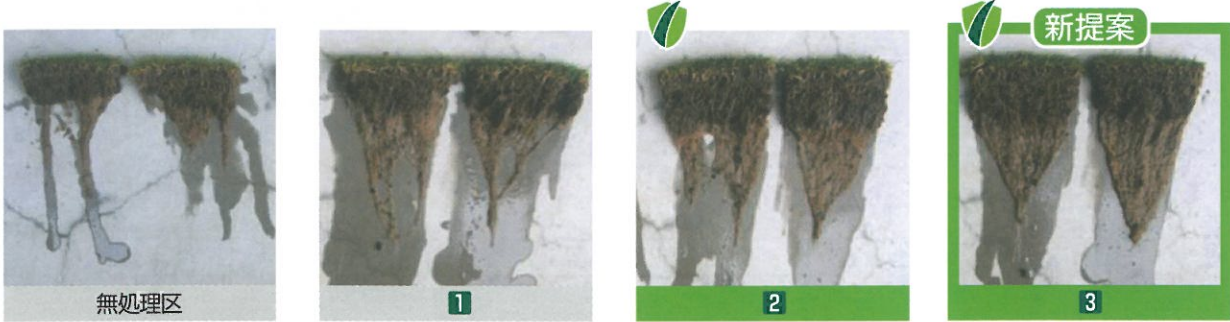
■ 激発病害発生傾向の場合

散布時期	5月			6月			7月			8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
発生対象病害	炭疽病 ダラースポット			藻類 炭疽病	フェアリーリング病 ダラースポット病 ビシウム病		藻類 ブラウンパッチ ビシウム病			赤焼病 炭疽病			炭疽病 藻類	ビシウム病 ダラースポット	
薬 剤 名				プロテクメート WDG			ミラージュ フロアブル			インター フェース			シグネチャー WDG		
		プロテクメート WDG						シグネチャー WDG		インター フェース				ミラージュ フロアブル	
			ミラージュ フロアブル						シグネチャー WDG		シグネチャー WDG			プロテクメート WDG	
					インター フェース					インター フェース					デティケート フロアブル

注：病害発生時期およびその程度を鑑みて、使用する薬剤を変更してください。※プログラム散布についてのご質問は取扱代理店又はバイエル担当者にお尋ね下さい。

プログラム散布の効果（根量比較）

試験場所 茨城県Bゴルフ場 調査年月日 2013年9月6日



	全散布回数	内訳
1 慣行殺菌剤散布区(UVカット資材含む)	殺菌剤7回	UVカット資材6回
2 ストレスガードプログラム	殺菌剤7回	シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ミラージュ1回(6月)
3 ストレスガードプログラム 新提案	殺菌剤7回	シグネチャー5回(6月・1回、7月・2回、8月・2回) ミラージュ1回(6月) インターフェース1回(7月)

- ストレスガードを含むプログラム散布において(2、3)、夏越し後にベントグリーンの健全な根系が確認されました。
- インターフェースを加えることにより(3)、さらに健全な根系の生育が確認されました。



インターフェース
フロアブル

殺菌剤

芝用

農林水産省登録
第23359号

適用病害及び使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤およびそれぞれの有効成分を含む 農薬の総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	ダラースポット病	100倍	0.1ℓ/㎡散布	発病前～ 発病初期	本剤 6回以内 イプロジオン 8回以内 トリフロキシストロビン 6回以内
		250倍	0.5ℓ/㎡散布		

(2014年2月現在)

有効成分と性状

種類名	イプロジオン・トリフロキシストロビン水和剤
商品名	インターフェースフロアブル
有効成分	イプロジオン 23.1% トリフロキシストロビン 1.4%
性状	青緑色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	1ℓ×12本

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)

人畜毒性 (急性) 普通物*	経口	ラット(♀)	LD ₅₀ 5,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >5,000mg/kg
	皮膚刺激性	ウサギ	軽度刺激性あり
	眼刺激性	ウサギ	軽度刺激性あり
	皮膚感受性	モルモット	皮膚感受性なし
水産動植物に 対する影響	ニジマス		LC ₅₀ 1.47mg/ℓ(96hr)
	オオミジンコ		EC ₅₀ 0.6mg/ℓ(48hr)
	藻類		ErC ₅₀ 5.32mg/ℓ(0-72hr)

*「毒物および劇物取締法」に基づく「毒劇物の指定を受けない物質を示す」

効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください。(分離)
- いちご、なしに対して薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意してください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守ってください。特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意事項

- 桑葉にはかからないようにしてください。(蚕毒)
- 誤飲などのないように注意してください。
- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当を受けてください。(刺激性)
- 皮ふに付着しないよう注意してください。皮ふに付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。(弱い刺激性)
- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用してください。

- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをして、衣服を換えてください。
- 作業時の衣服などは他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は取扱いに十分注意してください。
- 公園などで使用する場合、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中および散布後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないようにしてください。小児、人畜等に留意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製し、使い切ってください。空容器は農場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。

水産動植物の被害防止等に関する注意事項

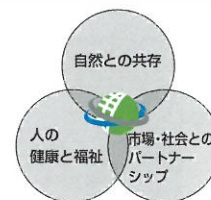
- 産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

貯蔵上の注意事項

- 直射日光を避け、食品と区別して冷涼な所に密栓して保管してください。



バイエルクロップサイエンスでは、将来の世代のニーズを損なうことなく
現代のニーズを満たす、「持続可能な発展」のため、Protecting Tomorrow ... Todayをモットーに
① 人の健康と福祉 ② 自然との共存 ③ 市場・社会とのパートナーシップ
を柱として様々な活動を実施しています。



- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届くところには置かないでください。



Bayer

バイエルクロップサイエンス株式会社
エンバイロサイエンス事業本部

〒100-8262 東京都千代田区丸の内1-6-5
【お客様相談室】0120-575-078

詳しくはこちらへ

www.es.bayer.jp

検索

お問い合わせ先